

平成 21 年度

島根大学教育学部附属学校園研究紀要

豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究

豊かな「学び」をつくる子どもの育成 ～子どもの学びをつなぐ～

2009.11

島根大学教育学部附属学校園

幼小中一貫教育の推進のために

島根大学教育学部附属学校部長

多々納 道子

私ども島根大学教育学部附属学校園において幼稚園、小学校と中学校の一貫教育について検討を始めたのは、平成15年度からです。平成16年度の法人化への移行とともに、本格的な検討に入り、幼小中の一体的な学校経営・教育経営を基盤とする一貫教育体制をとったのが、平成20年度からになります。この間、教育改革に向けて教員研修会を開催することから始め、一貫教育校としての経営形態やカリキュラムの検討、幼小中一貫教育推進計画の策定、育てたい子どもの姿の検討と策定等を行う中で、幼稚園の4歳児から中学校3年生までの11年間の学びと育ちについて、共通理解をもち、一貫した教育活動を行うに至っています。

本学校園では育てたい子どもの姿を、次のようにとらえています。

1. 新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども
2. 豊かな感性を育み、創造的に探求し続ける子ども
3. 人とのかかわりを大切に、共に伸びていく子ども

本学校園の一貫教育は、教育学部の支援を受けつつ、教職員の共同体制によって段階的に取り組んできました。これまでの一貫教育の取り組みの概要と成果は、まず平成18年度と19年度に「幼小中一貫教育を語る会」において公表しました。平成20年度からは「幼小中一貫教育研究発表協議会」として開催し、今年度は、第2回にあたります。したがって、一貫教育活動の取り組みを公開するのは、通算4回目になります。ここに至ることができたのは、教職員たちが附属学校園の底力を発揮して取り組んでくれた賜物と考えています。

今年度の研究発表協議会は、昨年度からの研究主題である「豊かな社会生活を創造する幼小中一貫教育の追究 豊かな学びをつくる子どもの育成」を受け継ぎ、副題として「子どもの学びをつなぐ」を掲げ、成果の一部を発表いたします。

折しも、小中一貫教育全国サミットは、平成21年度で4回目の開催になり、その全国連絡協議会に参加する自治体や学校は年々増加しています。このことから、学校における一貫教育活動は教育改革の旗手であり、推進役でもあることが理解できます。私どもは、本学校園の一貫教育の取り組みをさらに深化・進化、発展させることが子どもたちの確かな学力と豊かな心をより一層育むことになり、さらに地域の教育に貢献できるものととらえています。

皆様方の温かいご支援とご協力をお願いします。

目 次

本学校園の取り組み～基本的な考え～	1
-------------------	---

教科部会の取り組み

●国 語	17
発達段階を見通して育てる読む力のあり方をさぐる	
●社 会	33
子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学学習	
－ 思考力、判断力、表現力を育てる学習活動の実践 －	
●算数・数学	49
豊かに考え、表現する算数・数学学習	
－ 学び合う関係の中で、個人の思考を表出して伝え、論理的な理解を深める －	
●理 科	65
科学的思考力を育てる理科学習の展開	
－ 科学的に表現する力の育成を通して －	
●外国語活動・英語	81
豊かなコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成をめざした外国語活動・英語科	
●音 楽	97
表現する力を育てる創造的な音楽活動	
－ 音楽づくり・創作活動を通じ、仲間とのかかわり合いの中で思考力・判断力・表現力を育てる －	
●図工・美術・技術、ものづくり	113
図画工作・美術	
豊かな造形体験を活かし、自分らしい表現を追求する図画工作・美術	
－ 思いをつかみ伝え合う中で思考力・判断力・表現力を育てる －	
技術	
確かな知識と技術を活かし、生活を工夫し豊かにすることのできる技術学習	
－ 体験的な活動を通じ仲間とのかかわりの中から思考力・判断力・表現力を育てる －	
ものづくり	
表したいことや課題について創意工夫し評価・改善・表現できるものづくり	
－ 体験的な学習活動を通じかかわりの中から思考力・判断力・表現力を育てる －	
●家 庭	141
確かな知識・技術を活かし、生活を工夫し豊かにすることができる家庭科学学習	
－ 実践的・体験的な活動を通じ仲間とのかかわりの中から思考力・判断力・表現力を育てる －	
●教科部会の成果と課題	157

研究領域の取り組み

保育・生活・総合領域	159
道徳領域	163
特活領域	167
研究領域の成果と課題	171

本学校園の取り組み

～基本的な考え～

教科部会の取り組み

（ 研究領域の取り組み ）

おわりに

島根大学教育学部附属学校園では、国立大学法人化準備期間の平成15年度から、教育学部の「中期目標・計画」のもと、よりよい附属学校園のあり方を検討・構想し、平成20年4月から新しい学校組織・運営体制のもとの一貫教育をスタートしました。「新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども」「豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども」「人とのかかわりを大切にし、共に伸びていく子ども」を幼稚園・小学校・中学校の11年間で「育てたい子どもの姿」として設定し、子どもたちの成長にふさわしい教育のあり方を追求しています。

また、平成19年度から「豊かな『社会生活』を創造する幼小中一貫教育の追究」を研究主題をかかげ、「思いやりをもち、集団の一員であることを自覚しながら知識・技能、学び方を習得し、学び続けていく子どもの姿」「思考力・判断力・表現力を活用しつつ、課題解決の過程から、ものの見方や考え方、自分自身への気づきをさらに獲得しようと学び続けていく子どもの姿」の実現をめざし、教科等の研究・実践を行っています。

本年度は、サブテーマを「豊かな『学び』をつくる子どもの育成～子どもの学びをつなぐ～」とし、保育・教科学習を中心とした取り組みでは、子どもたちの学びをとらえながら思考力・判断力・表現力を育てることに主眼をおいています。また、研究領域を中心とした取り組みでは、思いやりをもち、集団の一員であることを自覚した姿の育成をめざして、「保育・生活・総合」「道徳」「特別活動」の実践を教育研究ブロックごとに見つめ直すことによって、子ども一人ひとりの11年間の成長を考察したいと考えています。

一貫教育が緒に就いてから6年余になるところですが、研究・実践を進めていく中で、課題や成果も少しずつ見えてきつつあるように感じているところです。そうした研究・実践の成果が一人ひとりの子どもたちの健やかな成長につながることを願い、さらなる研究の充実をめざしてまいりたいと存じます。今後とも、本学校園の研究・実践に対しまして、諸先生方の温かい御理解と御支援・御批正をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成21年11月

学校園長 宮本弘和

◆ 共同研究同人一覧 ◆

附属学校部長 多々納道子
同 学校園長 宮本 弘和
同中学校副校長 大島 悟
同小学校副校長 吉崎 朗
同幼稚園副園長 秦 光司

【国語】

〔小〕 中村 紀恵 藤原 さり 喜多川昭博
〔中〕 ○川井 史生 木下 ミユキ 湯浅 哲司
林原 公子
〔学〕 福田 哲之 富安 慎吾

【社会】

〔小〕 陶山 昇 高木 敏光 和田 倫寛
〔中〕 ○竹崎 葉子 原 義昭 前島美佐江
〔学〕 加藤 寿朗

【算数・数学】

〔小〕 仙田 淳一 村上 幸人 徳永 勝俊
〔中〕 ○後藤 幸広 安野 洋 光森 千修
西田 修
〔学〕 岩田 耕司

【理科】

〔小〕 深田 剛生 釜田美紗子 伊藤 裕子
齋藤由美子
〔中〕 ○高橋 里美 福島 章洋 宮下 健太
〔学〕 松本 一郎

【音楽】

〔小〕 赤木 寛子 神門 洋子 上代 美樹
飯島 湾
〔中〕 ○小村 聡 岩田 佳子
〔学〕 藤井 浩基

【保育(健康)・保健体育】

〔幼〕 加納 美紀 岡本 里恵 芦村こころ
名越 絵美 小松原知子
〔小〕 ○荏田 幸浩 小林 敏朗 小草 康弘
〔中〕 上田亜由美 柏木 裕至 寄友 亘
〔学〕 廣兼 志保

【図工・美術・技術】

〔小〕 ○三桐 撰夫 矢野美穂子
〔中〕 ○後藤康太郎 渡邊賢太郎 錦織 秀行
〔学〕 佐々 有生

【外国語活動・英語】

〔小〕 仙田 淳一 中村 紀恵
〔中〕 ○小澤 正則 高田 純子 須田 香織
米田リリアン
〔学〕 縄田 裕幸

【家庭】

〔小〕 村松麻衣子
〔中〕 ○井上富美子
〔学〕 丸橋 静香

【子ども支援】

〔小〕 宮崎 紀雅 野津 道人 森脇千恵子
三井久美子 福島由美子 小川真由子
〔中〕 奈良井 正 江角 聡子 古瀬 知美

【保育・生活・総合】

初等部前期〔幼〕 岡本 里恵 芦村こころ
〔小〕 藤原 さり 矢野美穂子
初等部後期〔小〕 喜多川昭博 三桐 撰夫
和田 倫寛 野津 道人
中 等 部〔小〕 ○高木 敏光
〔中〕 光森 千修 上田亜由美
小澤 正則 岩田 佳子
原 義昭 竹崎 葉子
江角 聡子 井上富美子
〔学〕 川路 澄人

【道徳】

初等部前期〔幼〕 加納 美紀
〔小〕 徳永 勝俊 小林 敏朗
初等部後期〔小〕 中村 紀恵 村上 幸人
村松麻衣子 伊藤 裕子
森脇千恵子
中 等 部〔小〕 深田 剛生
〔中〕 ○福島 章洋 高田 純子
柏木 裕至 後藤康太郎
須田 香織 安野 洋
〔学〕 西田 忠男 権藤 誠剛

【特別活動】

初等部前期〔幼〕 名越 絵美 小松原知子
〔小〕 荏田 幸浩 飯島 湾
福島由美子
初等部後期〔小〕 ○仙田 淳一 神門 洋子
釜田美紗子 上代 美樹
中 等 部〔小〕 小草 康弘
〔中〕 高橋 里美 古瀬 知美
後藤 幸広 木下 ミユキ
寄友 亘 宮下 健太
川井 史生 前島美佐江
〔学〕 高旗 浩志

教育研究ブロック主任

赤木 寛子 陶山 昇
湯浅 哲司

○：主任 〔幼〕：幼稚園 〔小〕：小学校 〔中〕：中学校 〔学〕：学部共同研究員

平成21年11月 印 刷

平成21年11月 発 行

発 行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校部 <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/link.html>

印 刷 (有) 木 次 印 刷

〒690-2403 雲南市三刀屋町下熊谷1635